



未来をつくる ソーシャルイノベーション 第2部

文・西村勇哉

暮らしの中から見つける変化の力

CASE: 42 カフェー — 立場を超えた交流 —



『クイーンズ・レーン・コーヒーハウス』(1654年開業)は、現在でも開店しているオックスフォードに現存する最古のコーヒーハウス。
www.qlcoffeehouse.com

POINT!

異なる階層の人たちが集まる場に情報と議論が加わることで、新しい社会を生み出す原動力が生まれる。



異なる階層の人たちが集まる場に情報と議論が加わることで、新しい社会を生み出す原動力が生まれる。

今回から第2部として、私たちの生活に溶け込んでいるものを振り返り、それが社会の状況にどのように変化を生み出してきたかについて、考えていこうと思います。

第2部の始まりは、カフェが持つ「立場を超えた交流」の力について、コーヒーハウスの歴史を見ていきます。コーヒーは有史以前から栽培され、13世紀に焙煎したコーヒー飲料が誕生し、15世紀に中東・イスラム世界全域に広がり、16世紀にヨーロッパに伝わったのちに、17世紀にヨーロッパ全土に広がっていきます。日本では、1888年に東京に初めてのカフェがオープンしています。

そうした中、1650年にオックスフォードにイギリス初のコーヒーハウスが誕生し、続いて1652年にはロンドンにもできました。

コーヒーハウスは、その目新しさに加えてさまざまな効能(消化を助ける、眠気を防ぐ、頭の働きを助ける、など)を宣伝に織り交ぜながら、上流階級の社交の場とも、庶民の酒場とも異なる、新たな場を提供します。当時のコーヒーハウスは、入場料が1ペニー(約1000円)、コーヒー杯が1ペニーで、この金額は上流階級の貴族だけでなく、庶民にも支払うことができる金額でした。結果、コーヒーを飲むために多くの人がコーヒーハウスに集まり、貴族、商人、文人、スパイ、泥棒とい

った従来は階級で区切られ交わらなかつた人々が集まる場が生まれます。

また、コーヒーハウスには新聞や雑誌が置かれ、入場した人は一日中自由に閲覧できたため、情報を得るための場としての機能を始めました。同時に、1688年につくられた『ロイズ・コーヒーハウス』では、航海に出た船舶の情報を収集した「ロイズ・ニュース」を発行するなど情報発信の機能も備えていきます。

17世紀のイギリスにおけるコーヒーハウスは、階級を超えた人々の集まりと、情報の閲覧と収集が行える場でした。当時のイギリスは、清教徒革命(1638~1660年)の最中であり、社会構造が大きく変わる中で、コーヒーハウスが多く議論と発信を起こしていきます。異なる階層の人たちが集まる新たな場と、情報に基づいた議論が起こる仕組みによって、コーヒーハウスは民主主義の進展に寄与し、社会の変化を後押しする力を生み出してきました。



にしむら・ゆうや ●大阪大学大学院にて人間科学の修士を取得。人材育成企業、財団法人日本生産性本部を経て、2008年より開始したダイアログBARの活動を前身に2011年にNPO法人ミラックを設立。Emerging Future, we already have(すでに在る未来の可能性を実現する)をテーマに、全国横断型のセクターを超えたソーシャルイノベーションプラットフォームの構築と未来潮流に基づいた新規事業創出のためのプロジェクト運営に取り組む。
NPO法人ミラック代表理事
http://emerging-future.org